

利根中央病院

第17号
2008年4月

病院

だより

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針

理念 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療

方針 ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり



今号の特集



利根中央病院 新病院長あいさつ 長坂 一三

1. 結核の現状と診断に際しての留意点
内科医長 吉見 誠至
2. 平成20年度放射線科ダイレクト予約
担当医師のご案内
3. 新任医師・研修医 あいさつ (順不同・敬称略)
<内科> 佐藤洋子・関口雅則・米田尚弘
<小児科> 鈴木僚子・大津義晃
<整形外科> 信太晃祐・小泉裕之・岡田純幸
<産婦人科> 池田禎智
<泌尿器科> 小屋智子
<皮膚科> 矢田康子
<眼科> 細貝真弓
<病理科> 森田あやこ

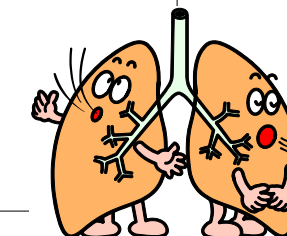
【研修医】 川島光明・塩澤裕行・佐々木毅志・小松 恵

毎月医療従事者を対象に公開の勉強会を行っております。
お気軽にご参加ください

オープンCPC

第3月曜日 18:30~20:00

場所 利根中央病院 研修棟講堂



緩和医療研究会

第3木曜日 18:30~20:00

場所 利根中央病院 研修棟講堂

予告

- 5月15日 「緩和医療における精神腫瘍学について」
かんわチーム精神系専任医師:藤平 和吉
- 6月19日 「緩和医療におけるこころのケア」
かんわチーム・緩和ケア診療科医長:原 敬



お問合せ・お申し込み先

利根中央病院 地域連携室(直通電話:0278-22-4325)

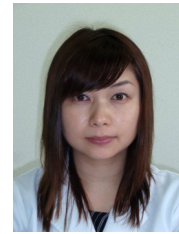
婦人科医師



池田 禎智

4月より赴任してまいりました。地域の皆様のお役に立てますよう頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

眼科医師



細貝 真弓

4月より赴任して参りました。皆さんにとって身近な医療を提供できるように張ります。何でも気軽に相談して下さいね。

病理科医師



森田 あやこ

各科の患者様が円滑に医療を受けられるように、現在の体制に協力して全力でがんばります。

よろしくお願いします

組合員さんをはじめ、地域の皆様のお力になれるよう、頑張ります。お気軽に声をかけていただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。



前院長の基本方針貫き
地域連携と医療安全
新病院建設めざし奮闘



利根中央病院
病院長 長坂 一三

都築靖院長の後任として4月1日付をもちまして利根中央病院院長に就任いたしました。

微力ではございますが、前院長の基本方針を受け継ぎ、全力を尽くす所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、「医療崩壊」が叫ばれる昨今、当院も課題山積であります。専門分化がすすむ内科をはじめ各診療科の医師不足、助産師・看護師不足は一刻の猶予も許さない状況です。群馬大学の先生方のご支援をこれまで以上をお願いする次第であります。県中部から遠く離れて位置する当院は、以前に比べ改善されたとは言え、アクセス等の面で人材確保がままなりません。沼田利根地域における当院の役割を十分に果たすためには 地域連携の考え方をいっそう広め、現在運用されている連携パスに加え、脳卒中・心筋梗塞等のパス運用も大きな課題です。更に、今後増加が確実視されている糖尿病への対応も地域連携によって進められることが必要と痛感しております。医師会の先生方をはじめ各方面の方々のご理解とご協力をお願い申し上げます。また、人材の養成が急務であります。医療人としての見識を深める制度教育の拡充、各専門職の養成等待たなしの課題であります。鋭意進めてゆく所存であります。

医療安全の確保をどう進めるか一国民的課題となってきました。先日、厚生労働省は死因究明制度に関する第3次試案一医療安全調査委員会（仮称）の創設と医師法21条の改正が骨子一を発表しました。これは各学会の支援を受け、日本内科学会が取り組んだ「モデル事業」を下敷きにまとめられたものです。今後、各方面から見解が発表されと思われませんが、問題は警察の関与をどう制限してゆくのかが、患者への補償をどうするのが焦点であります。この点で今回の試案がどのように考えているのか、注目したいと思います。しかし、全体として今回の第3次試案は、医療者の立場を反映したものであると思いますが、それだけではなく、「単に医療者を一方的に追究、あげくに逮捕、刑事訴追という警察の手法では何ら問題の解決にならない。それどころか、『医療崩壊』に拍車をかける」という認識が広く国民のなかにも浸透してきたことの表れと考えます。

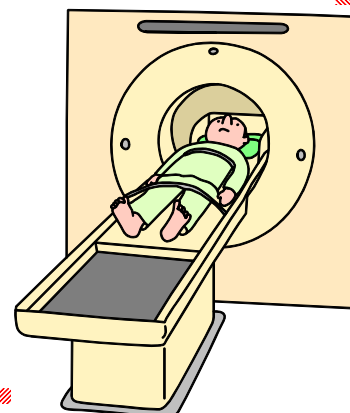
平成20年度

放射線科ダイレクト予約 担当医師のご案内

CT・MRI検査前診察 担当医師一覧

担当医師	月曜日	水曜日	木曜日	金曜日
長坂		○		○
安藤	○		○	

- * 基本的には午後の予約枠となります。
- * 地域連携室直通の電話にご連絡ください。
(0278-22-4325)

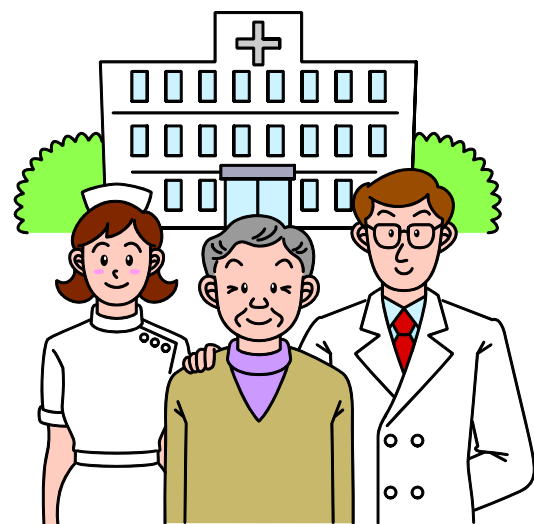


こうした国民の変化に対応すべく、当院でも患者・組合員の苦情・意見に対しては、コンフリクト・マネージメントの手法も取り入れ、患者・組合員と医療者との協同作業としての医療構築をめざし、医療生協にふさわしい解決を図って行きたいと考えております。

もうひとつ国民の変化をあげるとすれば、一つは「後期高齢者医療制度」への強い怒りであります。名前を変えてもその本質は変わりません。その撤回に向けて力を尽す決意であります。二つは「憲法改正」反対が賛成を15年ぶりに上回り、「9条守れ」が6割に達した（読売新聞世論調査）ことです。平和を守ることは医療人の最も基本的責務と考えますので、大変歓迎すべきことでもあります。「9条守れ」の声をいっそう強めたいと思います。

当面する当院の最大の課題はなんと言っても 新病院建設であります。長年の懸案であった隣接地の取得が実現して、今年度中の建設着工に向けマスタープランの作成中です。医局、各部門・職場での議論が進められています。今建設の主要テーマは老朽化した病室・給食施設の建設、手狭とまった手術室の新築などで、回復期リハビリ病棟の確保も検討中です。この他、照射施設の建設、救急外来ならびに関連施設の整備・確保、健診・保健施設の拡充・整備等も大きな課題です。この大事業は医師をはじめ大多数の職員の力の集中なしには成し遂げられません。幸い、医局での熱い論議を皮切りに、職場討議以外でもさまざまな形での論議がおこりつつあります。こうした論議をあまねく、正しく集約して、患者・組合員・職員の満足のゆく建設を進めてゆく決意です。

都築前院長時代に定式化された当院の基本的性格・役割—「急性期・亜急性期医療」を担い、「がん診療連携拠点病院」、「臨床研修指定病院」として使命を果たす—のいっそうの強化、充実に向けて、変わりつつある国民の意識とも呼応しつつ、地域連携の視点に立って一歩一歩着実に進んでゆきたいと思っております。



2008新任医師紹介

内科医師



佐藤洋子

4月より赴任してまいりました。消化器疾患を中心に診療させていただきます。地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。



関口雅則

4月より赴任してまいりました。将来は消化器科希望です。まだまだ微力ですが、一生懸命頑張りますので宜しくお願いいたします。



米田尚弘

不慣れで、ご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、がんばりますので、おねがいいたします。

小児科医師



鈴木僚子

4月より当院勤務となりました。誠意のある診療を心がけております。地域医療に貢献したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



大津義晃

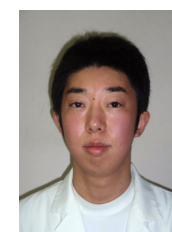
この病院で生まれ、この地域で育ちました。お世話になった地域の方々、子供たちのために頑張らせて頂きます。宜しくお願い致します。

整形外科医師



信太晃祐

4月より赴任して参りました。地域の皆様が元気に暮らせるように頑張りますので、四肢、関節の痛みなどありましたら相談して下さい。



小泉裕之

4月より赴任してまいりました。一年間日々の診療に努力していきたいと思っております。宜しくお願いいたします。



岡田純幸

はじめまして。縁があつて働かせていただくことになりました。よろしくお願いたします。

皮膚科医師



矢田康子

4月より赴任して参りました。利根沼田地区の皮膚疾患に悩む方々のお役に立てるよう、精一杯がんばります。宜しくお願い致します。



小屋智子

4月より赴任して参りました。排尿障害でお悩みの方は男女問わずぜひ外来へ来て下さい。できる限り御相談に乗りたいと思っております。

将来は整形外科か消化器外科医

このたび利根中央病院にて初期研修をさせていただく事になりました佐々木毅志と申します。出身は群馬大学で大学時代は軟式テニス部に所属していました。

利根中央病院での研修を希望した理由は大学5年の冬に病院実習をさせていただき、雰囲気の良いさに惹かれたからです。職種を問わず職員どうしの仲が良く、とても働きやすそうだと感じ

ました。今はまだ入職したばかりで分からない事だらけですが、早く顔を覚えてもらえるように頑張りたいと思います。

将来は整形外科か消化器外科の道に進みたいと考えていますが、せっかくのスーパーローテーションなので少しでも多くの事を学びたいと思っています。頑張りますのでよろしくお願いいたします。



佐々木 毅志



忍耐強さと体力に自信あり



塩澤 裕行

こんにちは。研修医1年目の塩澤裕行と申します。実家は群馬県の伊勢崎市にあり、10年ぶりくらいに群馬に戻ってまいりました。久しぶりに聞いた群馬弁がなつかしく、地元に戻ってきたことを実感している感じです。大学は青森県の弘前大学というところを出ました。大学ではバドミントン部に入り、6年間みっちりとしてきました。

今は病院のことも医療のこともわからないことだらけでみなさんに迷惑をかけてしまうことが多いと思いますが、寒い青森で鍛えた忍耐強さと部活で鍛えた体力で1日でも早くみなさんについていけるようがんばっていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



結核の現状と 診断に際しての留意点



内科医長 吉見誠至

ご存知のように結核は結核菌が人から人に伝染する感染症です。結核の感染と発病について触れておきますが、咳などにより患者から空気中に排出された結核菌が、経気道的に肺胞内に吸い込まれると、感染が成立します（飛沫感染）。結核菌に曝露されると、約半数の人に感染が起こります。残りの人は気道の線毛運動などにより菌が肺胞に到達する前に除去されます。結核菌が肺胞に到達すると、肺と所属リンパ節に病巣をつくります。感染した人の中で5%程度の方が、感染に引き続いて結核を発症します。これを一次結核とよんでいます（感染から1年以内が多い）。

発病するかどうかは、宿主の抵抗力や吸い込んだ菌の量に関係してきます。感染したけれども発病しなかった人には結核に対する免疫が生じ、結核菌の活動を抑え込むことができます。ツベルクリン反応（ツ反）は結核菌に対する生体の免疫反応をみたものですが、結核菌に感染したことがあるかどうかを示しています（わが国ではツ反陰性者にBCG接種を行っていましたので、その影響があります）。一次結核を発症しなかった感染者の大多数はその後発病しないで一生を過ごせるのですが、その中で5%程度の方が、数年から数十年などかなりの年月がたってから結核を発病します。肺やリンパ節などの体内にとどまっていた結核菌が、宿主の抵抗力低下に伴って活動を開始したものです。これを二次結核とよんでいます。

結核菌が死滅せずに長期間宿主の体内にとどまっていられることが、結核の特徴のひとつであり、結核がなかなか撲滅できない要因にもなっています。二次結核を発症する宿主側のリスクファクターとしては、抵抗力の低下に関係していますが、加齢、糖尿病、出血性胃潰瘍、肝硬変、血液透析、ステロイド剤・免疫抑制剤・抗がん剤の使用、HIVなどがあげられます。

さて結核の現状ですが、表に示しますように結核の罹患率は全国的にみるとゆるやかに減少傾向にあります。しかし世界的にみると、米国（4.7）、カナダ（4.6）、オーストラリア（5.1）に比べると、日本はまだ高い数値です。平成18年でみると、群馬県は日本の中で8番目に罹患率の低い都道府県です。最も罹患率の低いのは長野県（11.8）です。結核が人から人への飛沫感染であることから、

人口密集地域では感染の頻度が高くなるため、都市部で高く、山間部で低い傾向があります。ちなみに大阪市の平成18年の罹患率は57.0、東京都は29.8でした。地域間格差が大きいことが一つ問題になっています。利根沼田地区は群馬県の数値とほぼ同程度です。この地域の人口が約10万ですので、罹患率の数字が年間の発生患者数とほぼ同じになります。当院でも年によるばらつきはありますが、年間数例の結核患者を経験します。痛い目にあうこともあります。当院で経験する結核のほとんどは、高齢者の二次結核と考えられる例です。

診断に際して大切なことは、まず結核の可能性を常に頭のかたすみに置いておくことです。肺結核の初期には症状がありません。初期には胸部の陰影のみ存在し、血液検査の血沈、CRPも正常であることも少なからずあります。病気が進んでくると咳、微熱といった症状がでてきます。肺結核の陰影は、典型的には空洞を伴う浸潤影があって周囲に散布影を伴うとされていますが、実際には空洞を伴わないこともしばしばです。CTでみると大半の症例で小結節影の散布がみられます。空洞を伴っている場合は感染力が高いことが予想されるので迅速な診断が求められます。

一次結核では肺のどの部位にも発生しますが、二次結核では肺のS1, S2, S6に多く病変がみられます。肺結核を疑った場合には喀痰検査を行います。痰が出ない場合には誘発喀痰検査（5%の高張食塩水の吸入による）、胃液検査も行います。それでも診断がつかない場合、気管支鏡も考慮されます。特に上記のようなリスクファクターの存在する方では積極的に疑う姿勢が大切と考えます。

表. 結核の罹患率 (人口10万人あたり)

	利根沼田	群馬県	全国
平成14年	13.4	16.9	25.8
平成15年	17.6	17.2	24.8
平成16年	14.6	15.1	23.3
平成17年	11.7	14.6	22.2
平成18年	13.9	13.7	20.6



当院研修医紹介

研修医の方々の抱負とご挨拶です。2年間よろしくお願い致します。

良い環境の中で経験積みたい

はじめまして。2年目研修医の川島と申します。昨年は群馬大学付属病院に勤めておりましたが、この4月から利根中央病院で研修医として勤めさせていただいております。慣れない事ばかりですが、皆様に助けていただいているおかげで少しずつ病院にも仕事にも慣れてきました。とても雰囲気の良い職場で、恵まれていると感じております。良い環境の中で、たくさん色々



川島 光明

な経験を積み、少しでも皆様のお役に立てればと思います。また日々の仕事を通じて、自分の経験値、知識、技術を飛躍させ、自分にとっても良い収穫が得られるように1年間過ごしていきたいと思っています。これからがんばりますのでよろしくお願い致します。



初心忘れず謙虚に日々精進



小松 恵

初めまして、1年目研修医の小松恵です。この3月に群馬大学を卒業し、4月から利根中央病院で初期研修をしております。出身は群馬県ですが、4月1日の入協式の日朝、部屋の外に広がる一面の銀世界を見て、赤城山を越えてきたんだなとしみじみ思ったのを覚えています。利根中央病院には学生時代に何度か実習でお世話になりましたが、実習を担当してくださった医師の医療に対する真摯な姿や熱意、病院全体の風通しのよさを感じ、この病院で働きたいと思っていました。医師としてはここからスタートです。確かな技術と豊かな人格を持った医師になれるよう、初心を忘れず謙虚に、日々精進して参りたいと思いますので、皆様よろしくお願い致します。

